

DIDP 毒性試験一覧（慢性毒性／発がん性試験）

番号	動物種、 系統 性別、 動物数等	投与期間	投与 方法	被験物質の種類、用量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/日) [設定機関]	LOAEL (mg/kg 体重/日) 根拠所見 [設定機関]	文献 (斜体は引用文献の 記載箇所を示す)
(3) ①	ラット Fischer 344 雌雄 各群 52 匹	2 年間	混餌	DIDP (CAS 26761-40-0)  雄：0、21.86、110.25、 479.20 雌：0、22.92、128.18、 619.59  (飼料中 0、400、2,000、 8,000 ppm)	肝：LOAEL が最低用量のため NOAEL は設定されていない [ECHA 2013]  MNCL：110 (2,000 ppm) [ECHA 2013]  100～128 (2,000 ppm) [NICNAS 2015]	肝：22 (400 ppm) 肝臓の海綿状変性に基づく [ECHA 2013]  479～620 (8,000 ppm) 肝臓重量の有意な増加及び病理組織学的な変化 [NICNAS 2015]	Cho et al. 2008 (訂正版 Cho et al. 2010)
	ペルオキシソーム増殖 ラット Fischer 344 雄 計 50 匹	12 及び 32 週	混餌	DIDP (CAS 26761-40-0)  (飼料中 0、400、2,000、 8,000 ppm)		(8,000 ppm の 12 週間摂取のみ でカタラーゼ量、活性が有意に増加)	
(3) ②	マウス CB6F1-Tg rasH2 及び 野生型 雌雄 各群 15 匹	26 週間	混餌	DIDP (CAS 26761-40-0)  rasH2 マウス ECHA 2013 の換算では 雌雄：0、150、500、1,500  (飼料中 0、0.1、0.33、1%)  野生型 (飼料中 0、1%)	500 (0.33%) [ECHA 2013]	1,500 (1%) 雄の ras H2 で認められた肝細胞 腺腫に基づく [ECHA 2013]	Cho et al. 2011